

【環境】7) 岩尾内ダム下流で濁りが長期化し、生態系が貧弱になっており、サンルダム下流の水質悪化等を検討すべき。

サンルダムの集水域の地質は細粒化されにくい火成岩類が多く分布するため、水が濁りにくい傾向にあります。同様の地質条件である岩尾内ダムにおいても通常の出水では濁りの発生やその長期化の問題は発生していません。

大規模な出水があった場合、ダム湖内の濁度が高い状態になることも考えられますが、このような状態に対応するため、サンルダムでは、図-1 に示すように、選択取水設備など、適切な対策を実施します。

なお、平成7年度に実施した環境影響評価では、富栄養化の予測手法として、ダムの貯水池や淡水の自然湖沼において一般的に用いられる予測手法である Vollenweider モデルを適用しています。サンル川は上流域からのリンの流出による負荷が小さく、富栄養化現象が発生する可能性は低いと予測しています。また、近隣で同様の地質条件であり、ダム湖内のリン濃度が低い岩尾内ダムでは、アオコの発生は認められず、富栄養化による水質の問題も発生していません。

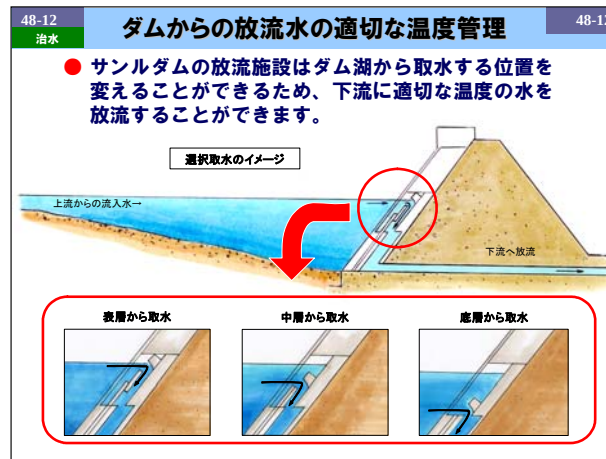


図-1

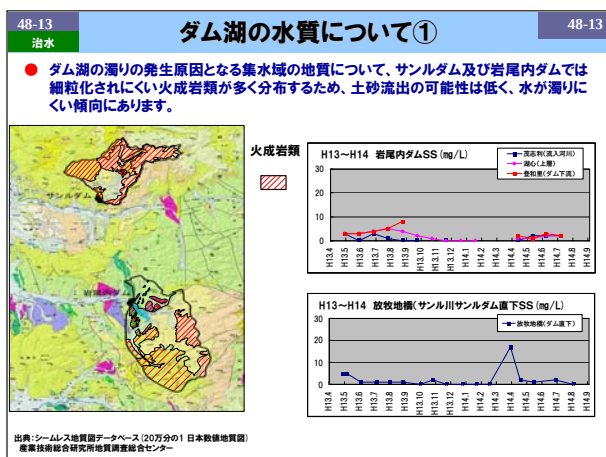


図-2

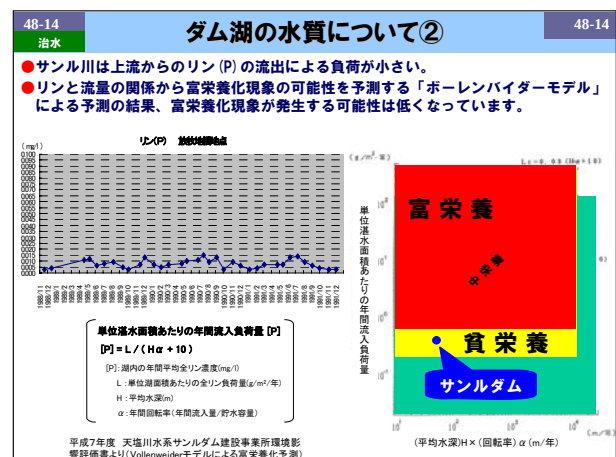


図-3